

令和4年度(2022年度)
吹田市立図書館点検・評価報告書

令和5年(2023年)12月15日

吹 田 市 立 図 書 館

この点検・評価報告書は、図書館法(昭和25年4月30日法律第118号)第7条の3に基づき、吹田市立図書館の運営の状況について自己評価を行うとともに、図書館協議会による外部評価をいただいて作成し公表するものです。

吹田市立図書館は、「吹田市立図書館サービス基本計画(令和5年度(2023年度)ー令和14年度(2032年度)」において、図書館が目指す3つの基本目標と、その目標を具体化するための個別の図書館サービス事業ー9つのサービス方針を掲げています。

令和4年度(2022年度)は、前計画である「吹田市立図書館基本構想」を基本に作成した「令和4年度 吹田市立図書館の基本方針と目標」に対し、自己評価と外部評価を行います。

*令和4年度(2022年度)の吹田市立図書館の活動については、「吹田市の図書館活動<令和4年度(2022年度)統計>」として、図書館ホームページで公表しています。

吹田市立図書館の3つの基本目標

基本目標 1 地域の情報拠点として、いつでも、どこでも、だれにでも役立つ図書館を目指します。

基本目標 2 生涯学習を支援して、人生を豊かにする図書館を目指します。

基本目標 3 子育て支援や学校との連携を通して、子供の健やかな成長に役立つ図書館を目指します。

指標の評価基準について

【数値目標】

A	数値目標を達成	100%以上
B	数値目標をやや下回った	70%~100%未満
C	改善が必要	70%未満

※数値に関する指標について、目標が「経年比増」とあるものは、令和3年度の実績値を100とし、令和4年度実績値が100%以上のものをA、70%~100%未満のものはB、70%未満であればCとします。

【実施目標】

A	達成	目標に対し順調に進めることができた
B	一部達成	目標の一部のみ進めることができた
C	未達成	取り組みはしたものの目標に進めることができなかった

基本目標1 地域の情報拠点として、いつでも、どこでも、だれにでも役立つ図書館を目指します。

サービス方針1 資料と情報の提供

【令和4年度目標の取組み状況】

(目標)成人サービス

- ◎「図書館講座じゅずつなぎ」を10～11月にかけて各図書館で実施します。
- ◎作成から年数の経過したパスファインダーや高齢者向け紙芝居リストを改訂します。

【パスファインダー】ある特定のテーマについて、資料や情報を探すための手順を簡単にまとめたもの。

- ・「図書館講座じゅずつなぎ」は7館で開催し、延べ参加人数は131名でした。
- ・パスファインダーについては、3種(「がん」を調べる方へ、「医薬品」を調べる方へ、「口腔ケア」を調べる方へ)を新たに作成し、2種(「病気・病院」を調べる方へ、「介護・療養」を調べる方へ)を改訂しました。また、医療系ブックリストも新たに19種作成しました。(サービス方針5も参照のこと)
- ・高齢者向け紙芝居リストは、改訂作業に着手しましたが、完成に至りませんでした。令和5年度に作業を継続し、完成を目指します。

(目標)レファレンス

- ◎国会レファレンス協同データベースへの事例登録を今年度も積極的に行います。また、パスファインダーについても登録をすすめるよう準備を行います。
- ◎E-レファレンス(Webからのレファレンス受付)についても、PRを進め、より一層の利用促進を図ります。

- ・国会レファレンス協同データベースへの事例登録は、研修の要素を重視し、内容を丁寧に精査したため、登録数は17件に留まりました。パスファインダーの登録は5件でした。
- ・E-レファレンスについて、市報すいた・教育だよりの特集記事や図書館ホームページでのPRに取り組みましたが、受付件数は23件でした。今後、より一層のPRを進めることが課題です。

(目標)地域資料の収集・保存と活用

- ◎写真データの保存と管理について、デジタル化を進め、ホームページ等で公開します。
- ◎視聴覚資料(レコード・カセットテープ・ビデオ)の保存について、デジタル化に向けて準備を行います。

- ・写真データや視聴覚資料のデジタル化については、方針の整理が課題となっており、取組を進めることができませんでした。

(目標)行政支援サービス

- ◎市がデジタルでのみ発行した資料の収集・保存方針について検討します。
- ◎庁内において、各種図書館サービスの認知度を高め、利用促進を図ります。

- ・市のデジタル発行物を調査し、必要に応じて印刷の上、資料受入れをし、冊子として市民に提供しました。
- ・庁内職員向けに新着図書紹介の「行政支援だより」を毎月作成し、発信する取組みを継続して実施しました。

(目標)児童サービス

- ◎夏休みにあわせ、最近1年間に出版されたおすすめの本を紹介した小冊子「もうよんだかな？」を作成し、館内で特設展示を行います。また、「もうよんだかな？ミニ版」を作成し、夏休み前に市内全小学生に配付します。
- ◎おはなし会、えほんのじかんなどの定例行事、「子どもと本のまつり」、季節ごとのおたのしみ会などを引き続き実施し、本や図書館に親しみを持つきっかけを作ります。

- ・「もうよんだかな？」を作成し、全館で紹介本を特設展示するとともに貸出しを行いました。「もうよんだかな？ミニ版」を市内全小学生に配付し、夏休みに向けて図書館のPRを行いました。
- ・定例行事や「子どもと本のまつり」、季節ごとのおたのしみ会などについて、1,812回実施し、延べ16,595人の参加がありました。(サービス方針8を参照のこと)

(目標)YA サービス

- ◎夏休みにあわせ、最近1年間に出版されたおすすめの本を紹介した小冊子「てくてく」を作成し、館内で特設展示を行います。また、「てくてくミニ版」を作成し、夏休み前に市内全中学生に配付します。
- ◎YA世代の利用促進を図るため、YAサポーターやてくてく編集委員の取組みを継続して行います。

【YA】 ヤングアダルトの略。吹田市立図書館では12～18歳を対象としている。

- ・「てくてく」を作成し、全館で紹介本を特設展示するとともに貸出しを行いました。「てくてくミニ版」を市内全中学生に配付し、夏休みに向けて図書館のPRを行いました。

・YA サポーターやてくてく編集委員の取組みを中央図書館と山田駅前図書館で説明会を含めて計 23 回実施し、延べ 85 名の参加がありました。

令和3年度 (策定時)	(指標)レファレンス受付件数		評価
	令和4年度		
	目標	実績	
10,455 件	経年比増	10,421 件	B

※利用者、他自治体、行政、学校などから受けた質問の総件数。

【図書館協議会の意見】

- ◎市民に新鮮な資料を提供するために資料費の確保に努めるとともに、より早く提供できるような工夫を凝らしてください。
- ◎パスファインダーの新規作成や改訂、医療系ブックリストを新規に作成されていることは評価できます。しかし、市民に利用されるためには、さらにPRが必要だと思います。
- ◎国会レファレンス協同データベースの登録等、非常に重要な役割だと思います。同時にこれが市民にとってどのような意味を持つのかについて、市民が理解する機会を増やすことも重要だと思います。ネットワーク情報源が主流となっているからこそ、図書館が保有する知識資源を社会に共有することを通じて、市民の情報ニーズや情報リテラシー向上につながることを社会に対して発信していくことが不可欠だと思います。
- ◎E-レファレンスの受付件数が年間 23 件というのは少なく感じます。E-レファレンスに限らず、サービスの認知度を高める取組や市民が司書に相談する垣根を低くする仕掛けづくりを今後も継続してください。
- ◎レファレンス受付件数が指標となっていますが、利用者が自分で問題が解決できるよう図書館の表示、説明を分かりやすくすることも重要だと思います。
- ◎地域資料のデジタル化については、先行事例を参考にしながら方針を定めるなど、ぜひ進めてください。方針が定まれば、新たに市民から収集することもできます。資料が散逸する前に取組みを進める必要があります。
- ◎市がデジタルでのみ発行した資料については、収集・保存方針を定めて取組みを進めてください。
- ◎行政支援サービスは、行政職員に図書館への理解を深めてもらうよい機会になります。今後も積極的に取り組んでください。
- ◎若い世代の意見や要望を取り入れることは、図書館運営を続けるうえで欠かせないと思うので、YA 世代の力を借り、直接交流できる機会を持っていることは大切なことだと思います。中央図書館、山田駅前図書館以外への広がりがあれば、さらにいいと思います。
- ◎YA 世代は読書の幅が広がる時だと思います。様々、楽しい企画もありますが、必ずしも一緒に集うものばかりでなく、個々のニーズを応援できる企画があるとよいのではないのでしょうか。

サービス方針2 バリアフリー読書支援サービス

【令和4年度目標の取組み状況】

(目標)障がい者サービス

- ◎「視覚障害者等の読書環境の整備の推進に関する法律(読書バリアフリー法)」(令和元年6月)の公布・施行に伴い、「吹田市視覚障がい者等の読書環境の整備の推進に関する計画(吹田市読書バリアフリー計画)」を令和4年度中に策定し、バリアフリー読書サービスを進めます。
- ◎アクセシブルな書籍等の充実を図るため、録音図書 100 タイトル、点字図書 25 タイトル、さわる絵本1タイトルの製作を目指します。

- ・「吹田市視覚障がい者等の読書環境の整備の推進に関する計画(吹田市読書バリアフリー計画)」について、令和5年2月に目標どおり策定できました。
- ・アクセシブルな書籍等の製作数は、コロナ禍でボランティアグループの会合の減少が影響し、録音図書 86 タイトル、点字図書 15 タイトル、さわる絵本0タイトルにとどまりました。
- ・図書館の障がい者サービスに対する認知度を高める取組みとして、えほんのじかんユニバーサルやバリアフリー映画上映会を実施しました。また、庁内会議(読書バリアフリー計画検討会議)の場で資料の紹介を行い、関係部署(子ども発達支援センター)での継続的な利用へとつながりました。

(目標)来館困難者へのサービス

- ◎非来館型サービスの一環として導入した、電子図書館サービス(「すいた電子図書館」)の利用促進を図ります。
- ◎身体障害者手帳等の交付を受けている方に、図書・雑誌の郵送貸出サービスを引き続き行います。

- ・電子図書館サービスについては、市報すいた・教育だよりの特集記事や図書館ホームページのトップページを活用し、周知を行いました。
- ・身体障害者手帳等の交付を受けている方への図書・雑誌の郵送貸出サービスについて、延べ 131 名に、234 冊を提供することができました。

(指標)アクセシブルな書籍等の年間貸出点数			
令和3年度 (策定時)	令和4年度		評価
	目標	実績	
31,803 件	経年比増	32,697 件	A

※デジジー図書、テープ図書、点訳図書、さわる絵本のダウンロード数及び総貸出数。

【図書館協議会の意見】

- ◎芥川賞を受賞された市川沙央さんが読書バリアフリーの現状に対して苦言を呈されたことで、図書館においても、読書バリアフリーに対する注目度が高まっています。新たに策定された計画に基づいた着実な取組みに期待しています。
- ◎吹田市の図書館の障がい者サービスについて経年比増の成果は素晴らしいと思います。今後、必要な人に情報が届くように、例えば障害者手帳の交付時にパンフレットを渡すなど、より広報の工夫をしていってください。
- ◎目標通り吹田市読書バリアフリー計画が策定できたことは、評価できると思います。計画ができたことを活用して、吹田市全体での取組みが増えることを期待します。
- ◎アクセシブルな書籍等の製作を楽しみに待っている方もおられます。コロナ禍が終息していく中で、これからはボランティアの活動も増えると思うので期待しています。
- ◎電子図書館サービスは、導入後にどれくらい利用されるのかが重要です。新規タイトルを継続的に導入するとともに、PR も引き続き行ってもらえればと思います。

サービス方針3 持続可能な運営

【令和4年度目標の取組み状況】

(目標) (仮称)吹田市立図書館サービス基本計画の策定

- ◎「吹田市立図書館基本構想」が平成25年(2013年)4月の策定から計画の終期である10年を迎えることから、国・社会の動向や図書館の現状と課題を踏まえ、次の10年間の図書館活動の指針となる「(仮称)吹田市立図書館サービス基本計画」を策定します。(令和5年度～令和14年度)

- ・「吹田市立図書館サービス基本計画」を目標どおり令和5年3月に策定しました。

(目標) サービス網の整備

- ◎北千里小学校跡地における複合施設(まちなかりビング北千里)の令和4年11月の供用開始に向けて準備を進めます。
- ◎江坂公園及び江坂図書館における Park-PFI による再整備並びに指定管理者による管理・運営について、令和4年度末の供用開始に向けて準備を進めます。

- ・公民館、図書館及び児童センターの3機能を融合した複合施設「まちなかりビング北千里」を令和4年11月22日に供用開始し、北千里分室を北千里図書館として、複合施設へ拡充、移転することができました。
- ・江坂図書館の再整備について、令和4年度末には間に合いませんでしたが、令和5年4月20日に供用を開始することができました。なお、指定管理者による管理・運営は令和4年7月より開始しました。

(目標) 広域連携の推進

- ◎北摂7市3町並びに大阪市との広域利用について、引き続き自治体間で連携し利用増加を図ります。
- ◎NATS(西宮・尼崎・豊中・吹田)図書館連絡会を通じ、府県をまたいだ連携について引き続き研究を進めます。

- ・北摂7市3町並びに大阪市との広域利用の貸出総数については、大阪市と池田市が微減となった他は増加し、令和3年度より約25%増の73,032点となりました。
- ・令和4年度については、NATS(西宮・尼崎・豊中・吹田)図書館連絡会は開催しませんが、コロナ禍の図書館運営上の対応等について、近隣自治体との情報交換を行いました。また、豊中市立図書館との職員交流研修(吹田市から豊中市へ職員派遣:テーマ「学校図書館との連携」、豊中市から吹田市へ職員派遣:テーマ「障がい者サービス」)が実施されましたが、府県をまたいだ連携については、引き続き研究を進めます。

【図書館協議会の意見】

- ◎今後 10 年間の図書館活動の指針となる「吹田市立図書館サービス基本計画」は大変良いものができたと思います。計画に基づいた具体的な実施を期待します。
- ◎図書館運営の中心を市職員が担っていくことが、将来にわたって図書館サービスを続け、発展させていくうえで重要なことだと思います。
- ◎北千里分室が北千里図書館に拡充され、利用者の長年の要望だった座席が増えて滞在型の図書館になりました。遅くまで開館しているため、学生などがよく利用しており、児童センターが併設されているので、児童は図書館を利用する機会も増えました。江坂図書館も、図書館部分の拡張ができてよかったです。サービス網の整備は終わったということになるとはと思いますが、書庫の確保は必要だと思います。
- ◎府県をまたいだ連携に関する現場レベルでの研究は珍しいかと思いますので、さらなる研究の進展に期待します。

基本目標2 生涯学習を支援して、人生を豊かにする図書館を目指します。

サービス方針4 利用促進

【令和4年度目標の取組み状況】

(目標)貸出機能の向上

◎令和4年(2022年)3月に開始した新規利用登録や借出カードの有効期限更新の Web 申請について周知・宣伝を図り、登録者数増を目指します。

- ・Web 申請での新規利用登録について令和4年度は 287 件、有効期限更新については 43 件でした。図書館に来館せずに電子図書館の利用を始められる利点等の PR とともに、Web 申請の更なる周知・宣伝が課題です。

(目標)広報・情報発信機能の推進

◎令和3年(2021年)1月に更新した新しい図書館ホームページ内のページ構成を見直し、利用者が情報を得やすいホームページを目指します。
◎SNS(Twitter、Facebook)など、様々な広報媒体を活用した情報発信を行い、利用促進を図ります。

- ・図書館施設案内を中心に、利用者が最新情報を入手できるよう、ホームページの迅速な更新に努めました。一方で、ホームページの掲載情報を整理し、利用者が欲しい情報にすぐたどり着けるページ作りが課題です。
- ・様々な広告媒体を活用して行事のイベントのお知らせや報告のほか、電子図書館等各種サービスの情報発信を行いました。特に Twitter(令和5年から名称がXに変更)では、引き続き司書おすすめの資料紹介を行うほか、「すいた図書館活用術」として、図書館の活用術や便利なツールについて紹介しました。図書館の利用促進につながる、SNS を含めた情報媒体の効果的な活用方法が課題となっています。

(指標)貸出点数			
令和3年度 (策定時)	令和4年度		評価
	目標	実績	
3,693,591 点	4,240,000 点	3,714,113 点	B

※上記貸出点数は、個人貸出数、団体貸出数を合わせた貸出総計。

※上記の貸出点数には電子書籍は含まず。(令和4年度の目標値は電子書籍を含まない設定のため)

(参考)電子書籍貸出点数

令和3年度	令和4年度
10,234 点	207,822 点

【図書館協議会の意見】

- ◎吹田市に引越してきたときに図書館の周知・宣伝があれば、とりあえず借出カードを作るのではないかと思います。書籍の販売も電子図書が増えています。これからは電子図書で借りられる方が増えると思うので内容の充実に努めて欲しいです。
- ◎指標の貸出点数は、電子書籍を含んだ場合、市民一人当たり 10 冊を超えます。目標には及ばなかったものの、よく健闘していると思いました。
- ◎HP や SNS を使った発信については、毎年度課題が継続している印象です。利用者が図書館の情報発信に何をもとめているのかを知ること、時代の流れにあった情報媒体を使うことにより利用促進につながるのではないのでしょうか。若い世代には、Line など活用できないのでしょうか。
- ◎SNS などの活用を検討するのであれば、利用者(市民)目線の図書館広報も重要になってくるのではないのでしょうか。口コミ情報が利用者や市民の行動に影響を与えていることは容易に想像されるので、図書館発信だけでなく、利用者発信の情報を積極的に活用する方法を検討していくことも重要だと思います。Web 関連情報の活用法についての講座等を積極的に進めるのもいいかもしれません。

サービス方針5 特色あるサービス

【令和4年度目標の取組み状況】

(目標)ビジネス支援サービス

- ◎ビジネスをテーマとした講座を開催します。(年1回)
- ◎「ビジネス支援だより」を起業家交流会の開催に合わせて発行します。(年2回以上)

・江坂図書館の改修工事に伴う影響により、講座の開催、「ビジネス支援だより」の発行とも実施に至りませんでした。目標の設定、取組の実施にあたって、状況を見越して、全館で取り組む体制を取るべきでした。

(目標)健康・医療情報サービス

- ◎近隣の医療機関と連携し、講座を実施します。
- ◎ブックリストやパスファインダーを作成します。
- ◎専門家による推薦書コーナーを設置するなど、専門知識を生かした情報提供を行います。

・講座について、千里図書館では大阪府済生会千里病院の協力による「おしりのはなし」、健都ライブラリーでは吹田市民病院との共催による「脳・脊髄・神経の健康を守る！」を開催しました。

・3種のパスファインダーを新たに作成しました。内2種はそれぞれ吹田市薬剤師会、地方行政法人 市立吹田市民病院の監修によるものです。その他、2種について改訂しました。また、医療系ブックリストも新たに19種(内、1種は国立研究開発法人 医薬基盤・健康・栄養研究所監修)作成しました。(サービス方針1 も参照のこと)

・専門家による推薦書については、市の健康医療部の保健師や歯科衛生士と共に、ブックリストを作成し、本の特設を行いました。コーナーの設置には至りませんでした。

(指標)関係機関との連携(連携した企画の実施回数)		
令和4年度		評価
目標	実績	
4回/年	5回/年	A

【図書館協議会の意見】

- ◎特色あるサービスは図書館自体の存在のPRとなるので期待しています。
- ◎ビジネス支援サービス関連の取組みについては、目標達成に向けた令和5年度での取組みに期待します。
- ◎充実した取組みを展開されているかと思います。多数の関係機関と連携が進み、新しく連携が始まった機関もあることは評価できます。関係機関と連携を図りつつ、引き続き取り組んでいってください。
- ◎医療機関と連携した講座は、高齢者が高い関心を持つもので、病院に行くまでもないが気になっていることについて専門家の話を聞ける、とてもいい企画だと思っています。引き続き各図書館で開催していただきたいと思います。

サービス方針6 施設や地域との連携

【令和4年度目標の取組み状況】

(目標)吹田市出前講座の充実と活用

- ◎実施した出前講座の様子を情報発信することで認知度を高め、次の需要を掘り起こしていきます。
- ◎オンラインでの開催や動画の配信等について研究を進めます。

- ・出前講座の認知度を高めるために、講座の様子を図書館のホームページで紹介しました。
- ・「抱っこで絵本講座」の内容の一部を動画配信し、読み聞かせの疑問などに対応できるようにしました。

(目標)吹田市各部署との連携

- ◎まなびの支援課、文化財保護課(博物館)、環境政策室、健康まちづくり室など、吹田市各部署と連携を進め、生涯学習の推進と図書館利用の促進を図ります。

- ・「図書館講座じゅずつなぎ」では、講師に博物館職員、下水道部職員にも依頼し連携を図りました。また、山田駅前図書館は、吹田市内にある国立民族学博物館の協力を得て、博物館を会場に博物館の職員を講師に迎えた講座を実施しました。
- ・母子保健課職員や市立吹田市民病院職員を講師に迎えた講座を実施し、連携を進めました。
- ・児童センターや保育園などからの依頼を受け、司書を講師派遣しました。(7回、延べ参加人数は422人)
- ・千里図書館や山田駅前図書館などの複合施設では、施設内での共催行事の実施や講師派遣などにより、施設相互の利用促進を図りました。
- ・健都ライブラリーでは博物館所蔵品を常設展示し、定期的に入替えを行いました。
- ・市内にある大学の図書館見学を受入れ、学生の利用の促進を図りました。また、司書課程履修の図書館実習生を受入れました。
- ・吹田市各部署や市内の大学等の施設と共催行事などで連携を進めましたが、利用促進に結び付く効果的な図書館のPRについて課題が残ります。

(指標)講師派遣回数(目標回数10回／年に対する達成度)			
令和3年度 (策定時)	令和4年度		評価
	目標	実績	
20%	経年比増	100%	A

【図書館協議会の意見】

◎施設や地域との連携は重要です。様々な部署との連携により、幅広い活動を展開されている点は高く評価できます。講師派遣することによって、図書館のPRができるとともに、司書の専門性をアピールすることができると思います。今後とも連携を深めていってください。各種講座の実施については、外出できない人も受講が可能になるように、引き続きオンラインでの開催の研究を進めてください。

サービス方針7 市民との協働

【令和4年度目標の取組み状況】

(目標)ボランティア活動の推進

- ◎図書館フレンズについて、周知・宣伝方法の工夫を図り、50名以上の登録を維持します。また、活動日誌を参考にフレンズ自身の意見を取り入れて活動内容の充実を図ります。
- ◎ボランティア養成講座の実施と修了者の登録促進や活動継続促進のための働きかけを行います。

- ・図書館フレンズの令和4年度登録者は54名で、目標を達成できました。活動回数は157回、延べ活動人数は、238人です。活動内容が定着し、固定の図書館フレンズが活動する反面、新鮮味に欠けるといった感想もあり、活動内容の充実が課題です。
- ・「音訳・対面朗読ボランティア養成講座(初級・中級・上級)」「点訳ボランティア養成講座」「お話ボランティア養成講座」「お話ボランティアスキルアップ講座」を実施し、新規ボランティアの登録及び既存ボランティアの活動継続促進を図りました。「音訳・対面朗読ボランティア養成講座(初級)」修了者のボランティアグループ登録は4名、「お話ボランティア養成講座」修了者の登録は24名でした。

(目標)市民参加の推進

- ◎市民作品展など市民参加の企画を実施します。

- ・千里丘図書館において、市民作品展コーナーを設置し、市民の文化活動の発表の場としています。2か月交代で延べ15人の市民の作品を展示しました。また、出品者を講師に迎えた講座を2回開催しました。
- ・江坂図書館において、市民の協力のもと、江坂アートサロン(旧名:江坂ロビーフェスタ)を5回開催しました。

(指標)ボランティア総数			
令和3年度 (策定時)	令和4年度		評価
	目標	実績	
580人	経年比増	586人	A

【図書館協議会の意見】

- ◎市民参加については、今後も継続して進めていく必要があると思いますので、多様な参加方法を他図書館や諸外国の例を参考に検討いただければと思います。イベントの実施だ

けでなく、ワークショップなど図書館への意見や要望を反映する取組みへの参加も含むのではないかと思います。利用者懇談会など、ざっくばらんに利用者の意見を聞く会を開催することを検討してください。

◎ボランティアの高齢化など困難な状況の中、目標を達成できたのはよかったです。

基本目標3 子育てや学校の支援を通して、子供の健やかな成長に役立つ
図書館を目指します。

サービス方針8 児童サービス

【令和4年度目標の取組状況】

(目標)子ども読書活動推進計画

◎平成 25 年(2013 年)3月の改訂から9年を経て、国・社会の動向や子どもの読書活動を取り巻く状況の変化をふまえ、「第2次吹田市子ども読書活動推進計画」を策定します。(令和5年度～令和9年度)

・「第2次吹田市子ども読書活動推進計画」を令和5年(2023 年)2月に策定しました。

(目標)子育て支援サービス

◎ブックスタートの絵本配付率向上を目指します。(前年比増)
◎保育園の赤ちゃん会や離乳食講習会に参加し、事業の説明、絵本の配付を行います。
◎全館で「抱っこで絵本講座」を開催し、保護者への読書支援を行います。

- ・ブックスタート絵本の配付率は前年(80.7%)を下回り、79.7%にとどまりました。図書館遠方地域に巡回し、絵本を配付していた自動車文庫事業の終了や江坂図書館の改修工事による臨時休館が原因と考えられます。
- ・赤ちゃん会へは全館で計 21 回訪問し、絵本の配付と読み聞かせ等を行いました。
- ・「抱っこで絵本講座」(連続3回講座)は山田分室以外の9館で、計 12 回開催しました。山田分室は新型コロナウイルス感染拡大による影響のため、会場の確保ができず開催できませんでした。

(指標)行事参加者数(対象人口に対する目標割合)			
令和3年度 (策定時)	令和4年度		評価
	目標	実績	
16.2%	経年比増	24.9%	A

【図書館協議会の意見】

- ◎子ども読書活動推進計画について前回の改訂から相当の時期を経ているので、第2次計画が策定できてよかったと思います。
- ◎ブックスタートの絵本配付率が前年を下回ったのは残念です。吹田市では乳幼児健診が個別実施になっているため、全員配付が厳しい状況だと思いますが、絵本が1冊もない家庭がなくなるよう、100%を目指してほしいと思います。そのため、保健センターや保育所などにより一層連携して行ってください。各地区で子育てサロンが開催されているので、社会福祉協議会に声かけの協力をしてもらう等できたらと思います。
- ◎赤ちゃん会や離乳食講座への参加、「抱っこで絵本講座」の開催など、コロナ禍がまだ続いていたなかで、よくがんばっていると思います。

【令和4年度目標の取組み状況】

(目標)学校連携

- ◎令和3年(2021年)9月から開始した小中学校等への月1回の連絡便を継続して運行し、定期的な物流を確保します。
- ◎市立小・中学校の児童・生徒に1人1台貸与されている学習用端末で「すいた電子図書館」を利用できるようにします。
- ◎教諭との交流や読書活動支援者への技術的サポートを引き続き実施します。

- ・月1回の連絡便は、目標どおり継続して運行しています。年度当初に運行日程を周知することにより、計画的な利用を促すことができました。
- ・学習用端末での「すいた電子図書館」利用については、学校教育部と連携し、令和4年7月に目標どおり開始することができました。令和4年7月から令和5年3月までの期間で、141,162点の貸出がありました。

(指標)学校への団体貸出冊数			
令和3年度 (策定時)	令和4年度		評価
	目標	実績	
25,978冊	経年比増	32,379冊	A

【図書館協議会の意見】

- ◎子ども読書活動支援センターができたことで、学校連携をはじめとする活動が独自に追求しやすくなったと思います。その成果が学校への団体貸出冊数が増加していることにも表れています。
- ◎定期的な月1回の連絡便により子どもたちがさまざまな本を読む機会が増えました。教材関連図書の選書をしていただき、タイムリーに届けていただけることも大いに学習に役立っています。引き続き、より使いやすい連絡便になるように努めてください。
- ◎学習用端末で「すいた電子図書館」を利用できるようにする取組みは、児童・生徒の利用を促す上で非常に有効かと思われます。また、紙の本の利用が難しい児童・生徒にも読書の可能性が開かれたことは重要だと思えます。引き続きPRも行ってもらえればと思います。
- ◎教員に対する支援で、授業に生かせる具体的な図書館活用法(調べ学習)の事例集等をWeb等で提供すること等は教員にとっても参考になるのではないのでしょうか。また、探究型学習について教員自身が迷いのある状況もあるかと思えますので、探究型学習の利点を積極的に提示し、読書の推進や図書館のさらなる活用につなげていく取組みが必要だと

思います。

【令和4年度吹田市立図書館の運営について（講評）】

2つの図書館の移転・再整備、令和4年度の重要なテーマである今後の10年間の図書館活動の指針となる「吹田市立図書館サービス基本計画」を含め3つの計画を策定したことを評価します。

コロナ禍という異常な状況も次第に収まり、コロナ禍以前の状況に戻る時期で、図書館の運営も難しい中での各活動は評価されるものだと思います。しかしながら、よい活動も利用されないといけないので、そのPR方法の検討が必要です。他の部署、団体ともより一層協力していく必要があります。

図書館の講座等はとても充実しており、特に子供の本、そこに関わる人たちへの講座、作家や大学の先生など専門家による講義など毎年実施されていることを評価します。また、子供の読書活動支援の一つとして、吹田市の家庭文庫への支援は手厚く、子供の居場所の多様化、減少などで活動が難しくなっている中でも、それぞれの文庫に対応した支援をされています。

今後は、市民参加型の図書館サービスや学校支援等により重点を置き、一人でも多くの市民が吹田市に住んでよかったと思えるサービスを期待します。

図書館が単なる本の貸出しをする施設ではなく、市民の文化の中心となる変革の時期であり、それに沿った活動が求められる中、令和4年度にオープンした「まちなかりビング北千里」は複合施設として図書館が中心となるよい例であると思います。複合施設の運営は難しい面もあると思いますが、今後、地域住民に親しまれる、新たな複合施設として、施設内の連携がより一層進むことを望みます。

各目標の達成については、できていない取組みが一定見られますが、全体的には充実した活動を展開されていると思います。評価に関する取組み自体については、多様な図書館活動を幅広くカバーしていると思いますが、項目が多岐に渡ることで評価の負担が大きくなっていくようにも見受けられます。評価目標を達成できなかった内容は、より具体化して評価記載できれば、令和5年度目標・評価につながるのではないのでしょうか。